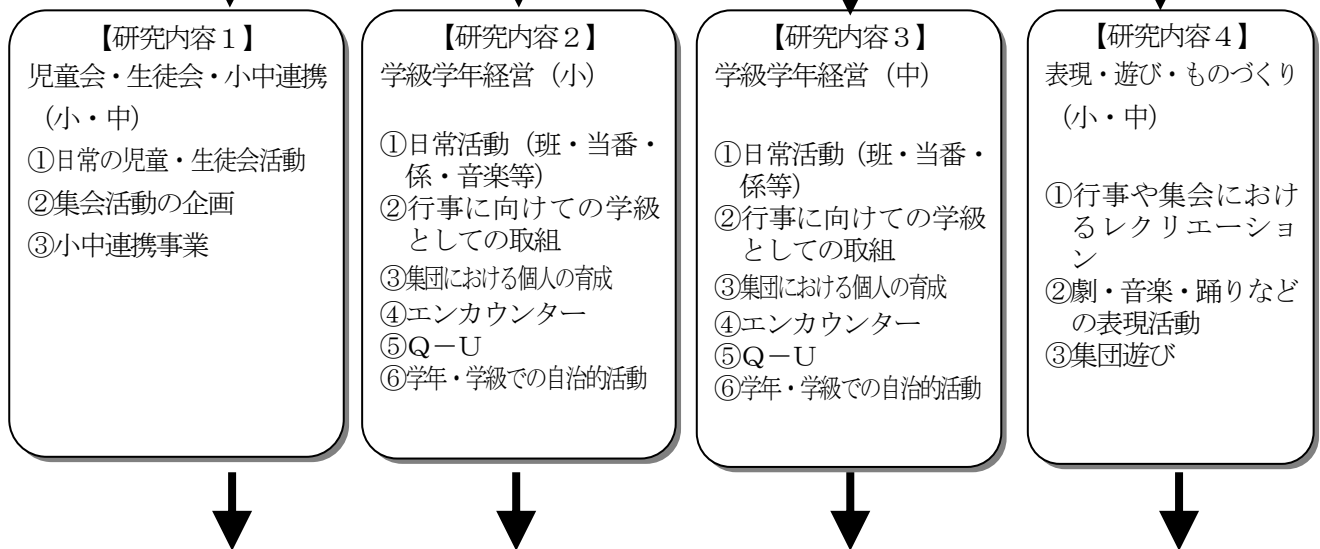


# 集団づくり部会

## I. 研究の概要

1. 研究課題：集団も個人も向上していくために、どのような工夫が考えられるか～コロナ禍で失った力を取り戻せ～

## 2. 研究内容



## 3. 研究方法

### (1) 交流計画

研究内容についての実践例・失敗談などを交流し、「集団も個人も向上していくために、どのような工夫が考えられるか」についての研修を深める。

### (2) 分科会構成

午後半日日程

北ブロック会場 (石狩市立花川南小学校)

南ブロック会場 (恵庭市立恵庭小学校)

#### 分科会

第1分科会 児童会・生徒会・小中連携 (小・中)

<研究キーワード> 日常の児童・生徒会活動、集会活動の企画、小中連携事業

第2分科会 学級学年経営 (小)

<研究キーワード> 日常活動、行事における学級としての取り組み、集団における個人の育成、エンカウンター、Q-U、学年・学級での自治的活動

第3分科会 学級学年経営 (中)

<研究キーワード> 日常活動、行事における学級としての取り組み、集団における個人の育成、エンカウンター、Q-U、学年・学級での自治的活動

第4分科会 表現・遊び・ものづくり (小・中)

<研究キーワード> 行事や集会におけるレクリエーション、劇・音楽・踊りなどの表現活動、集団遊び、すぐできる！かんたん！たのしい！集団活動

## II. 実践研究の経過と成果

### 1. 実践研究の経過

#### (1) 部会役員研修会による研究経過

- 5月 8日 第1回部会役員研修会  
令和5年度の部会研究の進め方
- 5月24日 第2回部会役員研修会  
研究計画の概要の確認
- 7月10日 第3回部会役員研修会  
今年度の研究課題の交流方法について
- 7月25日 臨時部会役員研修会  
課題部会研究協議会放送機器研修
- 9月12日 第4回部会役員研修会  
研究協議会の反省・総括
- 12月15日 第5回部会役員研修会  
次年度研究計画について



#### (2) 部会役員研修会での研究成果

- ・役員の仕事を細分化し、持続可能な部会運営を目指して取り組むことができた。
- ・Google meet を活用し、講師1名・南北2会場の講演会運営に取り組んだ。
- ・レポートの回収やアンケートの実施について、c4thやGoogle formを有効活用した。
- ・今年度の経験を踏まえ、来年度以降の分科会運営の在り方について検討した。

### 2. 課題部会研究協議会での交流・協議

<p><b>【第1分科会】</b> ～児童会・生徒会・ 小中連携（小・中）～</p>	<p>① 小集団でのレポート・実践交流 3～4人のグループに分かれ、レポート交流を行った。準備してきたレポートをもとに、各グループ活発な話し合いを行っていた。その後、全体で交流を行った。</p> <p>○駒里小中学校 五藤教諭 ・中学校の生徒会と小学校の児童会が連携し、子ども考案のレク集会を行う。 ・体力テストを中学生が下調べをし、小学生に取り組み内容を伝える。小規模校の良さを生かした取組を行っており、小中連携の活性化に向け、参考となった。</p> <p>○北陽小学校 桑田主幹教諭・三好教諭 ・中1ギャップ解消に向け、勇舞中学校と連携し、夏休みに小学校6年生向けに体験授業や、生徒会企画の学校紹介を行う。 ・中学校側の授業などの負担が大きくなるため、時間数などは検討していく必要はある。</p> <p>○恵庭小学校 庄子主幹教諭・豊田教諭 ・挨拶運動を児童会が中心となり行い、その活動が波及してクラス単位の活動となっている。</p>
--	---

- ・挨拶運動を行うだけでなく、掲示物や校内放送を活用することによって挨拶された側、する側の気持ちを共有することができた。

○江別太小学校 宮本教諭

- ・朝の挨拶運動を児童会書記局が中心となって行っている。
- ・「あいさつボランティア」を募集し、全校児童の誰もが挨拶運動に参加できるようにし、活性化を促すことができた。

○厚田学園 山下教諭

- ・小学校1年生～中学校3年生までできる活動を模索し、事務局（中1～中3）が中心となって企画運営をした。
- ・全校でのちぎり絵や、陸上記録会でどの学年も平等に楽しめる競技の企画運営に取り組むことができた。

○大麻東中学校 平井教諭・山田教諭

- ・昼休みを活用し、1～3年生の縦割りの企画に取り組んでいる。
- ・生徒会の発案の中から Google form でアンケートを取り、内容を決定した。

○児童会、生徒会活動について

コロナ禍の影響により、集会が分散型で行われることが増えていたものの、今年度はほとんどの学校が参集型で行われるようになった。集会の実施により、児童生徒の関わりが増え、子どもたちの笑顔が増えるようになった。

② 成果と課題

コロナ禍での経験を踏まえ、縮小となった行事をコロナ前に戻すかどうか、などそれぞれの学校内での行事運営について知ることができた場となった。また、小中連携の中核として児童会・生徒会が活動の中心となりうることから、どれだけ小学校と中学校の連携を密にしていけるかが、今後の課題である。

① 小集団でのレポート・実践交流

4～5人に分かれ、グループ内でのレポート交流を行った。どのグループでも活発な交流が行われており、学級や学年で取り組んでいる実践のほか、学校全体での取り組み内容など、幅広い交流が行われた。

○恵み野旭小 小坂教諭

- ・日常活動と集団における個人の育成の視点から、日直が1日の振り返りのなかで頑張りなどを伝えるという実践や、学級として話し合いの場を設ける際には形態を工夫する取組の実践報告をした。

○祝梅小 西永教諭

- ・hyper-QUの結果を踏まえ、日常活動の工夫がなされている。
- ・係活動の質の向上を目指す中でリーダーシップの育成を図ったり、相互に良いところ探しを実施したりすることで、集団の一員としての所属感を強めていく。

○大曲小 山下教諭

- ・ビブリオバトルという手法を用い、対話をしながら読書を紹介する。お互いに紹介することによって、共感して話を聞く姿勢が身につく。

○江別第一小 久保田教諭・湯浅教諭

- ・10人1グループで「交換家庭学習ノート」の取組を行った。同じノートを使うことで、友達へのコメントも見られ、子どもたち同士のつながりを強めることができた。

【第2分科会】  
～学級学年経営（小）～

【第3分科会】  
～学級学年経営（中）～

○大麻泉小 十亀教諭

- ・6年生の学級掲示について、集合写真を主に、卒業式まで掲示する。委員会の連絡コーナーを学級内にも設け、各委員一人ひとりに自覚を持たせている。

○野幌若葉小 林教諭

- ・グループ活動を通して主体的に行動する力を向上させた。運動会の大縄跳びでは、グループ編成を教師が行い、練習方法などを児童に任せてみた。自然とリーダー役が現れ、協力し合いながら取り組むことができた。

② 成果と課題

コロナ禍を経て、無関心や交流が薄く、活動を待つことができない児童が増えている傾向にあり、どうやって他人に意識を向け、主体的に関わっていくのかということが議題に上がっていた。コロナ禍で行うことが減っていたお楽しみ会などを通じ、集団で過ごす楽しさを実感する場面を設けることの重要性を実感することができた。

① 小集団でのレポート・実践交流

4～5人のグループに分け、前半はレポート交流、後半は討議の柱に沿った話し合いを行った。活発な交流が行われ、日常活動の共有はもちろんのこと、学校全体での取組の共有も行われ、濃い時間を過ごすことができた。

○恵庭中 綱木教諭

- ・今日のニュースを発表することで、対話力の向上を目指している。発表者は話し方の工夫をし、相手に伝えようとする姿勢が自然と身に付けることができる。

○恵明中 澁谷教諭

- ・一人一役を与え、班活動は班長中心に活動を行う。自らの仕事に自覚と責任を持ち、日常活動に臨むようになる。
- ・学級通信を重視することで、お互いの考えやテストに向けた取組方法などを紙面上で交流することができる。

○千歳中 國塚教諭

- ・学習委員長が主体的に活動している。連絡などは生徒自身が発信するようなシステムを構築している。自主的な活動を増やすことによって、自らの仕事に向き合うことができる。

○東部中 中本教諭

- ・良いところを発見し、相手に伝えるという活動が自己肯定感を上げる活動としてとても有効である。
- ・良いところ探しを通じ、相手の気持ちを考えて生活を送ることにつながり、生徒自身にとっての安心する環境をつくることとなる。

○樽川中 吉本教諭・高橋教諭

- ・「傾聴」に力を入れて指導している。人間関係や家庭環境の複雑さもあり、生徒が不適切な行動をとった「理屈」が未発達で希薄であるため、「感情」に寄り添った指導を心がけている。

○石狩中 鈴木教諭

- ・朝の会で日直が新聞の一面を読む活動をしている。生徒が活字に触れる機会を大切に、日々積み重ねることで生徒自身の弱点克服につながることを期待している。

**【第4分科会】**  
～表現・遊び・ものづくり  
(小・中)～

② 成果と課題

義務教育の最終学校でもある中学校では、主体的に活動を行う力の育成が求められる。コロナ禍を経て、相手の気持ちを想像する力の欠如が見受けられる中、自己肯定感を上げることにより、少しでも生徒が安心して学校生活を送っていきけるような日常活動を目指していく。短い時間ではあったものの、参加者は密度の濃い時間を過ごしていた。

① 小集団でのレポート・実践交流

小グループごとに持ち寄ったレポートの発表と実践を行った。参加型ワークショップ形式で行うことにより、子どもたちが集団の中で生き生きと活動できるような取組を知ることができた。

- 北栄小 人間知恵の輪、ペーパータワーを作ろう、鬼ごっこをしよう
- 東部小 お金持ちじゃんけん、クイズリレー、班対抗！万歩計競争！ビッグナンバーゲーム
- 祝梅小 誰にでもすぐ楽しめる！タグラグビー！
- 双葉小 よーく見て真似しよう
- 恵み野小 シュワッチゲーム、いっどこゲーム、名前ビンゴ誰の声でしょう
- 北陽小 じゃんけんゲーム、紙タワーゲーム、モンタージュこっち向いて お願い！
- みどり台小 高橋教諭  
王様じゃんけん、ギャンブルゲーム、ウインクキラークラゲムテープ宝探し
- 緑小 数字当てゲーム、ジェスチャーゲーム、並べ替えゲーム  
鬼ごっこフィーチャリング桃太郎、絵しりとり
- 恵庭小 佐々木教諭  
ハセガワゲーム
- 緑ヶ丘小 たけのこによっきつき、どんどん上がっていこう！
- 柏小 くるくるロケット
- 上江別小 カードかくれんぼ、ほめほめじゃんけん
- 南線小 うしうまゲーム
- 新篠津小 モルック
- 花川南小 黒板的当て
- 対雁小 パラバルーン
- 石狩八幡小 言うこと〇〇、やること〇〇
- 東野幌小 新聞パズル
- 紅南小 じゃじゃーんゲーム
- 豊幌小 キタキツネダンス
- 西当別小 ビジョントレーニング  
(出てきたじゃんけんに勝つ)

②成果と課題

コロナ禍で活動が思うようにできないなか、少しずつコロナ前のような集団で遊ぶ活動をする機会が増えてきた。すべてのレポートが誰でも簡単に行うことができ、さっそく明日から実践できるものであった。経験したことのない活動が多く、有意義なレポート交流の時間となっていた。





### Ⅲ. 講演会（実技・理論研修会）

「歌いかたを教えるということ～「合唱指揮者」という仕事～」

講師：尾崎あかり氏（日本合唱指揮者協会会員、札幌合唱連盟任命理事）

#### ① 講演会の様子

小学校、中学校どちらも行事で合唱を取り扱う機会が増えてきた。合唱を通して、集団として一つの目的に向かっていくためのエッセンスを取り扱った。その中で、主として活動に参加する人（児童・生徒）が楽しさを感じることの重要性を説いていた。また、具体的な練習方法について、実技を交えながら講演を行うことで、内容がよりわかりやすく、行事に向け実践していけるような内容であった。

#### ② 成果と課題

音楽をともに作り出すことにより、集団を形成していくうえで必要な力を学ぶことができた。「来年もさらに発展した内容を聞いてみたい」などの感想があがり、充実した講演だったと感じる部会員が多かった。



### Ⅳ. 部会研究の成果と課題

#### 1. 成果

- 全体会を南北開催にすることにより、移動の負担軽減を図ることができた。
- 分科会で小グループを用いて話し合いをし、異校種間の交流も行われ、発達段階の違いなどについても交流を深めることができた。
- コロナ禍を経て子どもたちの生活に様々な変化が生まれたものの、教員間で共通理解を深め、発達段階に応じて主体的に活動できるような指導をしていく必要が感じられた。
- 細やかな連絡により、レポート提出をスムーズに行うことができた。
- 対面しながら実際のレク活動を行うことができ、お互いの発表をより身近に感じる事ができた。

#### 2. 課題

- 南会場はオンラインでの全体会であり、音響の部分で聞き取りにくい場面があった。
- 当日のレポート交流では、chromebookの持ち出しができないことやwi-fi接続できない機器があり、通信料を部会員が負担することとなっていた。今後、レポート交流の際のレポートの扱いについて検討が必要である。
- コロナ禍が明け、様々な活動がコロナ前に戻る中、児童生徒の主体的に考え、行動する力をさらに高めていく必要があると感じた。

（文責 羽澤 茜・山形 健太）